037

沖縄県内の一般検査の現状について　第 2 報

～アンケート調査結果の比較から～

◎金城 和美[1)]、大城 春奈[2)]、東江 賢吾[3)]、森山 武志[4)]
琉球大学病院[1)]、社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院[2)]、那覇市立病院[3)]、社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院[4)]

【はじめに】沖縄県一般検査分野研究班では、2016 年に県内の一般検査の現状把握を目的に実施したアンケート調査から研究班としての課題をみつけ、一般検査の標準化を中心に約 5 年間の活動を行ってきた。今回、同様なアンケート調査を実施し、前回と調査結果を比較したので報告する。

【対象】令和 2 年度沖縄県医師会精度管理調査に参加した 74 施設。

【方法】インターネット方式による多項目選択式（令和 2 年度沖縄県医師会精度管理調査と同時に質問票を配布）。
調査内容：尿検査と髄液検査について-18 問-

【結果】回収率：79.7%（59/74 施設）

1） 尿検査について（n:59）

尿沈渣の鏡検方法は『基本無染色で必要に応じ染色または両方で観察する』施設が 64.4%と前回の 52.8%と比べ、改善がみられた。糸球体型赤血球の報告を行っている施設も 62.7%と前回の 58.3%より若干の増加を認め、赤血球形態の報告方法も GP1-P4 に準拠した施設が 62.2%と前回の 26.2%から大きく増加した。さらに、尿路上皮細胞の名称について、前回は移行上皮細胞の 70.8%が最も多かったが、今回は尿路上皮細胞が 66.1%と最も多かった。一方で尿沈渣用スピッツを正しく使用している施設は 78.0%と前回の 76.4%と変化がなく、スライドガラスへ正しい沈渣量を積載している施設は今回 66.1%と前回の 70.8%に比べ若干減少した。

2） 髄液検査について（n:34）

髄液検査を自施設で実施しているのは約 88%であり、そのうち約 73%は用手法であった。一方で自動分析装置を使用している施設は前回の 6.1%から今回は 20.0%と大幅に増えていた。また、細胞数の記載を　/μL で報告している施設は前回が 48.5%であったが、今回は 76.7%と増加していた。

【まとめ】アンケート調査の結果から、5 年間の活動より、尿沈渣形態報告方法については改善傾向にあると考えられた。改善のみられない項目や新たな課題については今後も検証を行い、研究班での啓発活動を継続していきたい。

<連絡先>098-895-3331（内線 3336）